

サミット“農業活動”に参入 ～「サミット農場」スタート～



サミットは、2006年より森林整備活動を行っている山梨県北都留郡丹波山村^{たばやまむら}で、今年度より農業活動に本格的に参入することを発表した。

昨年度は、丹波山村で耕作放棄地を借りて実験的に農産物の生産を実施。

今年度は、公益財団法人山梨県農業振興公社と農用地賃貸借契約を締結し、農産物の生産を開始する。

5月19日（火）には、同社田尻一社長と丹波山村村長 岡部政幸氏による「サミット農場鋤入れ式」を行った。鋤入れ式後には、同社新入社員約50名によって、耕作放棄地の開墾と農作物の植え付けを実施。

同社としては、将来的に作付面積を増やし店頭での販売を行うと共に、同社店舗利用客の農業体験イベント等も実施する予定。



岡部村長 田尻社長



▲鍬を初めて使う新入社員も多くいます。



▲田尻社長も新入社員と一緒に草むしり。

鍬入れ式後の開墾作業では、初めて鍬を使う新入社員も多くおり、新鮮な体験となったようだ。また、同社田尻社長も新入社員と一緒に土にまみれ、開墾作業に汗を流した。

今回、サミットの借地面積は614㎡、352㎡、198㎡の計1,164㎡。

今年度の生産予定としては、4月～5月にとうもろこし、枝豆、さといも、かぼちゃ、じゃがいも、さつまいもを植え付け、夏から秋にかけて収穫予定。8月～9月には、白菜、大根、長ねぎ、小松菜を植え付け、11月頃収穫予定。

新入社員を中心に年間で5回程度研修を予定しており、今年度はレジチーフが研修実施予定。また、社員ボランティアが年4回程度植え付け、収穫を実施予定。

その他、7月下旬に「ママとルンルン夏休みツアー」で50名程度の同社店舗利用客を招待し、農業体験（収穫体験）を実施する予定であるという。

田尻社長は「まずは社員達で耕すことで、楽しくコミュニケーションを取りながら農業活動をしていきたい。これまでは多摩川の水源を守る森林整備活動に注力してきた。今回、農業活動に参入することで、丹波山村の活性化に少しでも役立ちたい」とした。

岡部村長は「丹波山村には以前は約3,000人の村民がいたが、今は約600人となり関東で一番小さな村になってしまった。また、村民の48%が65歳以上となっている。

サミットさんには2006年から森林整備活動を実

施して頂き、間伐材の利用や路面整備などに協力頂いている。今回は農業活動の参入となり、水も空気もきれいな土地で作った“価値ある農作物”を協力して作っていききたい。

我々も活気を出して、活性化に繋げていきたい」とした。

今回、主にアジア太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開する国際NGOのオイスカ・インターナショナルは「このような活動は企業側の支援意思・協力意思があっても、受け入れる側に意思がないと成立しない活動でもある。ここでは、本当に必要な活動は植林ではなく森林整備活動だった。サミットさんには、その意義をご理解頂いた上で森林整備活動にご協力頂いている。ここでの活動は成功事例として、海外からの研修も多く、企業と村がマッチングしている良い例といえる。

この村での次の課題としては、“定住者希望”の開拓といえる」とした。

山梨県 丹波山村 (山梨県北都留郡丹波山村)

丹波山村は、山梨の北東部に位置。多摩川の源流、丹波川と雲取山、飛龍山、大菩薩嶺など険しい山々に囲まれた自然豊かな村。1990年に完成した丹波山村自慢の施設である長さ247メートル、高低差42メートルのローラーすべり台は、眼下に丹波溪谷を見ながら一気に下れば2分30秒、スリル満点のすべり心地。

■丹波山村ホームページ

<http://www.vill.tabayama.yamanashi.jp/>